

令和 6 年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立北田辺小学校

令和 7 年 3 月

大阪市立北田辺小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

北田辺小学校は、令和 5 年度に学校創立 90 年を迎えた本市の中でも伝統ある小学校の一つである。作家の開高健を輩出するなど卒業生で活躍している人材は多く、また、三世代にわたって本校に通っているという学校に思い入れのある家庭や、下町情緒を感じさせる人情味あふれる地域の特色にも支えられて、穏やかで安定した学校運営がなされている。

子どもたちも比較的落ち着いた学校生活を送っているが、他校と同様に喫緊の課題も山積しており、中期目標の達成に向けて次のような分析と課題設定を行う。なお、昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止による学校休業後の、「全国学力・学習状況調査」および「全国体力・運動能力、運動状況等調査」等の実施により、数値目標の設定については流動的である。

- ① コロナ禍の終息後も児童の心の教育を充実させる。子どもたちの不安感を取り除くことはもとより、混乱した社会の中で倫理観や道徳心を身につけるために、道徳教育・人権教育の充実を図る（いじめ・体罰・虐待を含め、児童の生活実態に対するアンケート項目について、前年度水準以上もしくは高水準の維持を目標とする）。
- ② 熱中症対策や感染症対策が喫緊の課題である。また、アレルギー症状のある児童への対応も引き続き重点的に取り組む必要がある。よって、子どもたちが安心して成長できる学校環境の整備に努める。（熱中症の減少や、引き続きアレルギー症状による事故ゼロ等、健康に関する調査で、前年度水準以上もしくは高水準の維持を目標とする）。
- ③ 新学習指導要領の実施に当たり、国語科教育の充実を課題に設定する。小学校での言葉の力を身に着けさせるため、語彙力を増やし、活用力を高めていく。議論できる学級づくりを基本として、「学校の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と答える児童を維持するを目標とする。
- ④ 「全国体力・運動能力、運動状況等調査」に向け、体育的行事はもとより普段の授業や休み時間の運動機会を十分に確保し、「体を動かしたり遊んだり、運動をしたりすることが楽しい」と答える児童を維持するを目標とする。
- ⑤ 児童の人間力を高めるためには、座学だけではなく音楽・図工・家庭科等の教科指導はもとより、児童会活動、クラブ活動、宿泊行事、音楽・芸術鑑賞等の集団活動や情操教育が重要である。時間の確保が困難な状況が予想されるが、できる限り前年度までの取り組みが継続できるように努力する（アンケートにより、学校生活の満足度が低下しないことを目標値とする）。
- ⑥ 特別支援学級に在籍する児童は多い。これまでに子どもに寄り添う丁寧な指導を実現してきたが、共生社会の実現をめざしたインクルーシブ教育の実践においては、障がいに対する深く正しい理解が重要である。今後も区役所や関係諸機関との連携を強化するとともに、ユニバーサルデザインの視点から授業改善を進め、インクルーシブ教育の推進を図る。

中期目標（令和7年度までの目標）

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

【ICTの活用に関する目標】

- ・学習者用端末を授業で週に2回以上活用する。（低学年は2学期より）

【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】

- ・「ゆとりの日」の設定を週1回以上設定したり、夏季休業期間中の学校閉庁日は3日以上設定したりする。
- ・学校安全衛生委員会の運営を改善し、教職員の働く意識を改善する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがある」について肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において肯定的な回答をする児童の割合を昨年度以上にする。
- ・児童アンケートで「友だちのいいところを見つけて伝えている」に肯定的に答える児童を70%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。(昨年度と同じ)
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。
- ・児童アンケート「授業中、クラスの人と聞きあい、話し合い、学びあえている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度の水準を維持できるようにする。
- ・食育や保健衛生を通して健康に関する知識理解を深め、自らよりよい生活習慣を身につけようとする児童の割合を、前年度の水準に維持できるようにする。

【学びを支える教育環境の充実】

【I C Tの活用に関する目標】

- ・学習者用端末を授業で週に1回以上活用する。
- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業数の50%にする。

【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】

- ・「ゆとりの日」の設定を週1回以上設定したり、夏季休業期間中の学校閉庁日は3日以上設定したりする。
- ・年次有給休暇を7日以上取得する教職員の割合を1月末に、90%以上にする。（R5 88.5%）
- ・ICTの校内運営を推進する校内体制を整え、ICT研修を充実させる。
- ・情報モラルに関する指導を強化するため、児童の実態に応じた指導を継続する。
- ・学校安全衛生委員会の話し合いを充実させ、校内での働き方について改善する。
- ・児童にふれあう時間を保障させるため、校時や学校行事の見直しを行う。

大阪市立北田辺小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 【R5 84.6%、R6 79.6%△】 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 【R5 4.31%、R6 3.97%◎】 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 【R5 40.0%、R6 44.4%◎】 ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがある」について肯定的に回答する児童の割合を79%以上にする。 【R5 78.6%、R6 82.6%◎】 ・小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において肯定的な回答をする児童の割合を昨年度以上にする。【R5 95.9%、R6 95.9%○】 ・令和6年度の児童アンケートで「友だちのいいところを見つけて伝えている。」に肯定的に答える児童を70%以上にする 【R5 未実施、R6 84.6%◎】 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【安全・安心な教育環境の実現（基本的な方向1）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して子どもたちの言動や行動について気になることは、日々の学級指導や職員会議等で連携し指導をおこなう。 (いじめへの対応) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を88%以上にする。 【R5 87.4%、R6 88.9%◎】 	B
<p>取組内容②【安全・安心な教育環境の実現（基本的な方向1）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活目標を毎月設定し、しっかりと守れるように指導していく。 ・安全な生活が送れるように、校内外のきまりを守ろうとする意識を高める。 ・学校をよりよくしていくために自分にできることをしっかりとやろうとする意識を高めるとともに、具体的な目標を設定し、その目標の達成に向けて学校全体で努力するよう指導していく。 ・LINEなどのSNSや、メールを使用してのいじめが起こらないように、児童にスマートフォンや携帯電話を持たせる保護者へ、家庭での使い方のルール作り、トラブル対応などの協力を求めていく。 	B

<ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策として、ほっとルーム（図書室準備室）を活用したり、スクールカウンセラーの連携を充実させることにより、児童一人一人に適した見守りや指導ができるようになる。また、こどもサポートネットと連携し、外部機関と連携して児童の指導にあたる。 <p style="text-align: right;">(問題行動への対応)</p>	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートで「自分から進んで、学校のきまりや約束を守っている」に肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。 【R5 未実施、R6 95.7% ○】 ・「ろうかを走らない」「トイレのスリッパをそろえる」等、具体的な目標を挙げ、成果と課題を明確にし、指導を継続して行う。 ・不登校の児童、その保護者の思いを把握した上で、一人一人に合った取り組みを進め、児童の健やかな成長に連携して取り組む。 	
取組内容③【安全・安心な教育環境の実現（基本的な方向2）】 <ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活の中で、自分や友だちのいいところを伝え合う活動を行うことにより、自尊感情を高め、他者への理解を深める。 (豊かな心の育成) 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 日々、児童の様子を観察したり「心の天気」「いじめアンケート」を活用したりすることにより、いじめのない安心できる環境を作ることができている。教職員間でも気にかかる児童の様子を伝え合う場を設けたり、積極的に情報交換をしたりすることで、情報を共有し、状況に合った対応ができるようになっている。トラブルがあったときには双方の意見を聞き、相手の立場に立って考えることの大切さを継続して指導し。児童アンケートで、最も肯定的に回答する割合は88.9%で目標を達成している。今後もいじめを許さない集団育成を継続して進めていく。</p> <p>② 毎月の目標を伝え、それに向けて努力するよう呼びかけ、良くできている点は称賛し、できていないことについては話し合いの時間を持ち気持ちよく生活できるよう指導してきた。トイレのスリッパを並べることについては、日々の指導に加え、美化委員会の工夫した取り組みもあり、きれいに並べようとする意識が以前より向上している。また、管理作業員さんが、廊下のセンターラインを引いていただいたこともあり、右側歩行の意識も高まりつつある。概ねきまりを守ろうとはしているが、意識して積極的に行っている児童とそうでない児童との意識の差があり、全体として良くなっているかというとまだ十分とは言えないのが現状である。持ち物や整理整頓（掃除）については、年度当初に教職員間で認識を共有し、児童に投げかけ、経緯を見守る（称賛する・注意を喚起する）ことが必要である。また、学校内での様子や月目標から、代表委員会、委員会等で児童側から提案すること</p>	

も意識の高まりにつながると考えられる。

- ③・不登校児童、課題の大きい児童への対策として、保護者と連携して取り組むことはできているので、そこは継続して進めていく。また、スクールカウンセラーや子サポとの連携により、精神的・物理的に安心して学校生活を送ることができている児童もいる。ほっとルームの活用はできているが、見守る職員の確保については厳しい状況がある。また、環境面から見ても適切であるかどうか検討の余地がある。
- ④あらゆる学習活動の中で、また係からの報告、「今日のキラキラさん」、振り返りカード等により、自分や友達の良いところやがんばったことを大切に取り扱うことを伝えることで、自尊感情の向上につながるようにしてきた。その結果、「友だちのいいところを見つけて伝えている」の項目に肯定的に答える児童が84.5%と、目標を達成している。

次年度への改善点

- ① 次年度への改善点
- ②「心の天気」等を活用しつつ、児童の様子を見て、気持ちに寄り添って効果的に指導し、見守る体制を整えたい。児童が何気なく発している言葉の中には人を傷つけるものも含まれていることがある。改善していくためにはこれまでどおり、教職員間で児童に関わる情報を交流する機会を持ち、複数の目で見守り適切に指導していくことが必要である。
- ③・ろうかを走っている、トイレのスリッパをそろえていない、掃除が行き届いていないなどの現象を見かけたときは誰であってもその場で指導することが必要である。まずは教職員が率先して行動することと、常にアンテナを張って児童の行動を「見る」ことが大切。
- ④・SNSの問題は現在においてはどこの学校でも大きな問題になっている。児童のみならず、保護者への啓発も検討し、大きなトラブルに巻き込んだり巻き込まれたりすることがないよう、警察等と連携し、継続して指導を進める必要がある。
- ⑤・不登校児童については、本年度同様、S.Cや外部機関との連携を工夫しつつ、一人ひとりの児童にとってどう対処することが望まれることなのかをよく検討しつつ対応していく。学校内での生活になじみにくい児童に対応する職員の確保が難しいようであれば、全体としての意思を確認するのも一つの方法であるように思われる。（「ここに人員をさく」ので「ここは学年で工夫して行う」ということの意思統一をするということ）。また、ほっとルームが安心できる場となるよう、環境面での整備も検討すべき。
- ⑥指導者が見つけた、児童が見つけにくい「良さ」を定期的に紹介することで広がりを作り、さらに自尊感情の高まりを目指す。（例えば、朝会で、児童の思いを発表したり、がんばりを紹介したりすることで、良いところを伸ばそうとする意欲を高める。ふれあい班活動や委員会、クラブ活動の時に称賛した出来事を担任に伝えたりすることで友だちの良い面を再発見するなど。）

大阪市立北田辺小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を52%以上にする。 【R5 51.8%、R6 45.8%△】 ・小学校学力経年調査における国語、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 【R6 6年 国語-0.05 算数-0.09、5年 国語 0 算数+0.05、 4年 国語-0.1 算数-0.06】 △ ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 【R5 79.3%、R6 76.9%△】 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。 【R5 81.8%、R6 81.7%△】 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。 【R5 68.6%、R6 68.3%△】 ・児童アンケート「授業中、クラスの人と聞きあい、話し合い、学びあえている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度の水準を維持できるようにする。 【R5 95.6%、R6 95.4%○】 ・食育や保健衛生を通して健康に関する知識理解を深め、自らよりよい生活習慣を身につけようとする児童の割合を前年度の水準を維持できるようにする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【誰一人取り残さない学力の向上（基本的な方向4）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかる楽しさ、できる喜び」を実感させるよう、学習形態を工夫し、主体的に学ぶ習慣を身につけさせる。 ・「議論できる学級」を経営し、児童に、話し合い活動を通して自分の考えを伝え、友達の考えを知ったり、比較したりすることで、考え方を広げたり深めたりする。 ・外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。 	B

(言語活動・理数教育の充実) (「主体的・対話的で深い学び」の推進) (英語教育の強化)	
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究「国語科」を中心に、研究主題を大切にした授業研究を計画的に実施する。「議論できる」の具体的な方法を研究の中で明らかにする。 ・児童アンケートの「自分の考えを発表したり、文で書いたりしている」を肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 【R5 84.4%、R6 84.3% △】 ・理科の専科制を第4学年より実施し、児童の理科に対する興味関心を高める学びを保障していく。 ・児童アンケートの「英語の学習が楽しい」を肯定的に答える児童の割合を前年度の水準を維持できるようにする。 【R5 89.9%、R6 92.3% ○】
取組内容②【健やかな体の育成 基本的な方向5】	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科の授業において、指導の方法を工夫し、児童が楽しみながら体力・運動能力の向上を図ることができるよう努める。 ・体育的行事や体力づくりの週間、遊びながら運動に慣れ親しむ場を工夫し、学校全体として体力・運動能力を高められるように環境づくりに努める。 <p>(体力・運動能力向上のための取組の推進)</p>
指標	<p>児童アンケートで「体を動かしたり、運動したりすることが楽しい」を肯定的に答える割合を前年度の水準を維持できるようにする。 【R5 91.6%、R6 92.8% ○】</p>
取組内容③【健やかな体の育成 基本的な方向5】	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーのある児童への配慮を強化・継続する。 ・感染症をはじめとする病気やけがに対する指導の充実を図る。 <p>(健康教育・食育の推進)</p>
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回、食物アレルギー研修を行い、食物アレルギー個別対応に係る事故防止を徹底する。 ・児童アンケートで「病気やけがをしないように気を付けている」を肯定的に答える割合を前年度の水準を維持できるようにする。 【R5 94.0%、R6 95.6% ○】
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① ・国語科の校内研究では研究主題を大切にした授業研究を計画的に進めた。児童の興味・関心を引き出すような「学習課題」を設定したり、「学習形態」を工夫したり、タブレットを活用したりして、主体的に学ぶ習慣が身につくよう心がけた。特に今年度は主体的に読んだり書いたり伝えたりできるよう、全学年で一人学びに取り組んだ。一人学びに取りかかりにくい児童には、ヒントを与えながら個別支援を行った。自分の考えをもって授業に臨むことで、自分の考えを伝えることが苦手な児童も自分から伝えようとする姿が見られるなど、交流活動が活発になった。また、指導者も事前に児童の考え方を把握できているの</p>	

で、より深い学びができるよう授業の組み立てを工夫した。また、高学年では議論できる学習課題を設定して交流活動を行った。しかし、今年度はどの学年も物語文教材の研究だったこともあり、自分の考えを述べる際に友達の考えを批評して論じ合う「学習課題」や授業展開の設定は難しく「議論する」に至らないことも多かった。また、自分の考えを書いたり、発表したりしている児童は多いが、「進んで」の言葉がつくと否定的に回答してしまう児童が多いようだ。アンケート「自分の考えを進んで書いたり、発表したりしている」を肯定的に答える児童の割合は 84.3%と、目標の 85%には若干とどかなかった。「クラスの人と聞きあい、話し合い、学び合っている」は、95.7%で、目標の 96%にほぼ達したといえる。

・理科を専科制で行うことで、丁寧できめ細やかな指導ができ、学級担任の負担軽減にもつながった。特に予備実験など実験準備には時間が要するため、ゆとりをもって準備をすることができた。その結果、児童の興味・関心を高める学習につながった。

・CNET の先生や中学校の先生と綿密に打ち合せし、指導・支援にあたった。ゲームを通して、いろいろな友達とコミュニケーションしたり、チャンツなどで繰り返し練習したり、一人一人が発表する機会を多くしたりして、英語に慣れ親しめるようにした。また、授業の始まりや終わりのあいさつ、朝の会を英語で行うことで基本的な表現に慣れるようにもしてきた。さらに、英語の絵本の読み聞かせ、モジュール等で使えるワークシートもあり、楽しんで取り組める工夫もされていた。アンケート「英語の学習が楽しい」を肯定的に答える児童の割合は 92.3%で目標の 85%を大きく上回った。

② 行事や運動委員会の企画、休み時間のみんな遊び、校庭開放などで、楽しんで体を動かしている様子が見られた。毎日の体力づくりを家庭学習にしている学級もあった。みんな遊び以外の休み時間については、個人差が見られ、ずっと教室で過ごす児童もいた。運動会では、各学年の実態に合った運動量で楽しく取り組み、体力アップにもなった。アンケート「体を動かして遊んだり、運動したりすることは楽しい」を肯定的に答える児童の割合は 92.8 パーセントで、目標の 85%を大きく上回った。

③ アレルギー児童への配慮について、日々の給食メニューのアレルギー食品やお弁当を全教職員の目で見て確かめられるようにしてきた。年度始めにはエピペン研修を行い、職員の意識を徹底させた。

病気やけがに対する指導の充実を図るため、毎月の保健だよりや保健室前の掲示物などで呼びかけた。アンケート「病気やけがをしないように気を付ける」を肯定的に答える割合が 95.6%で前年度を上回った。

次年度への改善点

- 「議論」できる学習課題をさらに探求する。
- 各学年に合った一人学び、説明文での一人学びを工夫する。
- 今年度は熱中症への危険から運動場で遊べない日が多くなった。その場合の体力づくりの場や方法を考える必要がある。

大阪市立北田辺小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>【ICTの活用に関する目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末を授業で週に1回以上活用する。 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業数の50%にする。 <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ゆとりの日」の設定を週1回以上設定し、夏季休業期間中の学校閉庁日は3日以上設定する。 年次有給休暇を7日以上取得する教職員の割合を1月末に90%以上にする <p>【R5 88.5%、R6 90.9% ◎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの校内運営を推進する校内体制を整える。また、ICT研修を充実させる。 情報モラルに関する指導を強化するため、児童の実態に応じた指導を継続する。 児童にふれあう時間を保障させるため、校時や学校行事の見直しを行う。 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 基本的な方向6】</p> <p>児童が主体的にICTを活用できるように、学習者用端末の使用機会を積極的に設定する。</p> <p>「心の天気」、「ナビマ」、「調べ学習」、「発表ノート」等を積極的に使用し、学習者用端末の活用を習慣化させる。</p> <p>(ICTを活用した教育の推進)</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの校内推進部を設置し、校内体制を整える。 ICT研修会を年2回以上実施し、充実させ、児童への指導研修に活かす。 「心の天気」を活用し、児童とのコミュニケーションの機会を増やす。 	
<p>取組内容②【教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 基本的な方向6】</p> <p>児童の発達段階に応じた、情報を正しく安全に利用できるようにするための知識の習得を図る。</p> <p>(ICT情報モラル教育の推進)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年の発達段階に応じて、情報モラルに関する指導を年間2回、取り組む。 	
取組内容③取組内容②【学びを支える教育環境の充実（基本的な方向7）】	

- ・会議等の精選や設定日を工夫することでゆとりを持てる日を増やす。
- ・学校安全衛生委員会を充実させ、教職員の健康、働き方、職場環境を整える。

(教員の資質向上・人材の確保)

指標

- ・ワークライフバランスの向上に向け、毎月の「時間外勤務時間」を点検する。
- ・学期に一度、学校安全衛生委員会を実施し、産業医の意見を取りいれ、教職員の健康・働き方、職場環境を整える。そのため、学校安全衛生委員会のテーマ等を事前に計画して実践する。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

- ①「心の天気」、連絡帳確認、日々の宿題、運動会のダンス動画、卒業文集、放送原稿、アンケート、調べ学習、記録や観察、考えの交流、学習内容のまとめ、家庭での学習等、様々な場面で学習者用端末の使用機会を設定し、活用している。その結果、児童は学習者用端末の扱いに慣れ、毎日持ち帰り、持つて来る習慣が身についた。教職員の研修を定期的に取り入れ、活用の仕方について学んだことが児童への指導に活かされている。
- ②情報モラル教育週間を設定し、計画的に行った。また道徳等の授業や日常のいろいろな機会に指導することで、発達段階に応じた内容を習得することができた。しかし、伝え方やまちがった使用の仕方からトラブルに発展することがあった。保護者と連携し、進めていく必要性を感じる。
- ③会議を精選することで、以前よりは放課後の時間が増え効率的に仕事を進めることができた。夏季休業中の学校閉校日は4日、冬季休業中の学校閉校日は3日設定した。管理職の働きかけや「ゆとりの日」の退勤時間をはやめることで、「ゆとりの日」を意識する習慣が定着し、勤務時間の短縮につながっている。「ゆとりの日」の退勤時刻が6時になり、時間外勤務の時間が減ってきている。安全衛生委員会の内容や決まった事等を共有している。

※専科制は「空き時間」を増やす面ではいいが、学級担任が裁量して使う時間が確保できない面もある。それが子どもと過ごす「ゆとり」を減らすことにもつながっている。

次年度への改善点

- ①研修会を計画的に進め、新しい活用の仕方を交流する機会を作る。また家庭での使い方や機器の扱い方の指導も引き続き必要である。漢字などの学習では、ICTでは漢字の認識が悪く、紙媒体の良さも感じたので取捨選択が必要。中学校との連携も必要。
 - ②継続して計画的に進める。情報モラルに関する研修を学年ごとに設定する。学年に応じてテーマ（動画）を決めておくことで系統的な指導を行う。保護者を巻き込んだ啓発（講演会等）の場を設定する。
 - ③新しい仕事内容が増えた分、今までの仕事内容を見直し、整理していく。記録される時間外勤務時間はかなり短縮されているが、平日の残った仕事を休日に行うこともある。時間的な「働き方改革」は推進できているが、心の面での働き方改革はまだ十分ではない。
- 学校安全衛生委員会を、計画的に進め、内容を具体的に伝える。職員の業務量の負担を、偏りがないようにする。

学校関係者評価報告書

大阪市立北田辺小学校学校協議会

1 総括についての評価

本年度の成果と課題を総括する。

【安全・安心な教育の推進】では、いじめ対応は学校挙げて計画的にすすめることができた。不登校児童への対応が大きく改善できた。保護者との連携を深め、児童の学校での居場所として、「適応教室」を設置するなど、態勢を整えている。スクールカウンセラーとの連携を密にし、「学校が来なくてはいけない場所から、来て楽しい場所」に意識化した。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】では、国語科の校内研究が計画的に推進でき、「議論できる学級作り」が経営できた。主体的な学びを推進できるよう、スポーツや英語に対して児童の関心意欲を高め、意識を高めることができた。

【学びを支える教育環境の充実】では、ICTの組織化から進め、ICT研修を充実させた。また、「働き方改革」では、児童の主体的な落ち着いた学びを保障するためには、教職員のワークライフバランスの意識改善により、ゆとりが不可欠であることが浸透してきた。「ゆとりの日」の週一回の実施や、学校閉庁日の実施等、大きな変革が進められた。教職員の意識改善が図られた。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：全市共通目標（小学校）

最重要目標1 「いじめ」○、不登校○、不登校改善○

最重要目標2 「話し合い活動」○、経年調査△、理科△、外国語△、運動○

最重要目標3 「学習者用端末の使用頻度」○、「年休取得率」○

年度目標：学校の年度目標

最重要目標1 「学校の規則」○、「友だちと仲良く」○

最重要目標2 「議論できる学級」○、食育・保健衛生○

最重要目標3 ICT校内体制の整備○、ICT研修○、情報モラル指導△

・学校が楽しいと答える児童の割合は非常に高い。

・児童の学びの主体性は高まり、全体としては前に向かって積極的に何事も取り組む校風がある。

その反面、学校への「行き渋り」については、社会背景をとらえて改善していく。

・地域や家庭と連携し、益々、学校の特性を活かした取り組みに対して期待が寄せられた。

3 今後の学校園の運営についての意見

・自ら学ぶ子の育成に向け、学校協議会の協力を得て進めていく。児童の学校への思いを高めることを大切にし、子どもが主役の学校を経営する。

・地域や家庭と連携し、学校の特性を活かした、地域・PTA・はぐくみネット等の行事や取り組みに対して大きな期待が寄せられた。その期待を裏切ることなく、学校経営を推進する。